

Ⅱ 調査結果の概要

今期は総じて悪化傾向にあり、来期も依然厳しい見通しが続く

1. 全体の概況

売上高と収益性を合せたD I 平均値(前年同期比)については▲21.9 となり、前回調査(27 年4-6 月期)の▲20.1 から1.8 ポイント下降している。来期見通しにおいては、6.8 ポイント上昇して▲15.1 となる見通しになっている。

売上高D I (前年同期比)については▲17.1 となり、前回調査の▲18.2 から1.1 ポイント上昇している。来期見通しにおいては6.6 ポイント上昇して▲10.5 となる見通しになっている。

収益性D I (前年同期比)については▲26.6 となり、前回調査の▲22.0 から4.6 ポイント下降している。来期見通しにおいては6.9 ポイント上昇して▲19.7 となる見通しになっている。

業況D I (前年同期比)については▲21.8 となり、前回調査の▲21.0 から0.8 ポイント下降している。来期見通しにおいては10.1 ポイント上昇して▲11.7 となる見通しになっている。

原材料価格D I (前期比)については「上昇」したとする企業が20.8%、「下降」したとする企業が4.4%で16.4 となり、前回調査の22.7 から6.3 ポイント下降している。

販売価格D I (前期比)については「上昇」したとする企業が3.4%、「下降」したとする企業が10.6%で▲7.2 となり、前回調査の▲6.2 から1.0 ポイント下降している。

資金繰りD I (前期比)については「好転」したとする企業が5.8%、「悪化」したとする企業が20.8%で▲15.0 となり、前回調査の▲12.1 から2.9 ポイント下降している。

金融機関の態度D I (前期比)については「緩和」したとする企業が5.4%、「硬化」したとする企業も同じく5.4%で0.0 となり、前回調査の1.9 から1.9 ポイント下降し硬化している。

設備投資実施率については25.9%となり、前回調査より1.1 ポイント上昇している。業種別で最も高い実施率となったのは「プラスチック製品」の50.0%で、目的別では「増産」と「品質向上」がともに17.0%、次いで「コスト低減」が15.1%、「省エネ」が11.3%となっている。

設備操業率D I (前期比)については「上昇」したとする企業が10.7%、「下降」したとする企業が26.2%で▲15.5 となり、前回調査の▲13.4 から2.1 ポイント下降している。

全体の景況天気図は前回同様「小雨」が続いており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

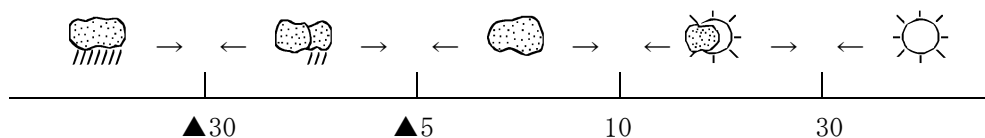
業種別に見ると「金属・同製品」が▲6.2 と前回調査の「雨」から「小雨」へ唯一天気図が回復している。反面、「プラスチック製品」が▲16.6 と「曇」から「小雨」、「窯業・土石製品」が▲30.6、「紙・加工品」が▲39.9 と「小雨」から「雨」へ前回調査と比べそれぞれ悪化している。また、「機械・機器」は▲11.6、「食料品」は▲20.9、「繊維・同製品」は▲30.0 で「小雨」、「木材・同製品」は▲40.0 で「雨」となっており、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては、「プラスチック製品」は「小雨」から「薄日」、「木材・同製品」、「窯業・土石製品」は「雨」から「曇」、「金属・同製品」は「小雨」から「曇」へそれぞれ回復。「繊維・同製品」、「食料品」、「機械・機器」は「小雨」、「紙・加工品」は「雨」が続く見通しとなっており、来期も依然厳しい見通しが続く。

【図表 1】

	25		26				27			来 期 見 通
	7－9	10－12	1－3	4－6	7－9	10－12	1－3	4－6	7－9	
全 体	 ▲16.2	 ▲7.7	 2.9	 ▲3.2	 ▲12.6	 ▲13.0	 ▲14.0	 ▲20.1	 ▲21.9	 ▲15.1

※景況天気図は「売上高」「収益性」（前年同期比）のD I 平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

